

キューバ共産党中央委員会第1書記、キューバ共和国大統領
ミゲル・ディアス-カネル・ベルムデス 第8回キューバ共産党大会閉会式における演説
「革命63年の年」2021年4月19日
“党は革命を革命する力でなければならない”

親愛なるキューバ革命の指導者、ラウル・カストロ・ルス革命軍将軍
親愛なる革命過程の歴史的世代およびキューバ共産党創立者の同志の皆さん
キューバ共産党中央委員会政治局および書記局の皆さん
キューバ共産党中央委員会の皆さん
代表の皆さん
同志の皆さん

《「革命」の「継承の党大会」－フィデル、ラウル、そして革命後世代へ》

第8回党大会が終了します。歴史的大会と評価できるものと確信しています。歴史的大会であることは事実です。

今日、私たち世代に責任と事業を引き渡す方々の生きた歴史と素晴らしい指導力に対し、私たちは深い感動と感傷を覚えています。そのうえで、どうしても強調しておかなければならないことがあります。

60年以上にわたる緊張のなかでフィデルとラウルの指導のもとにおかれてきた、使徒（マルティ）生誕100周年世代は、今日、品位と誇りをもって、次のように宣言することができます。強力な帝国からわずか90マイルのところまで成し遂げた社会主義革命は、不平等で不正な世界を震撼させている嵐のただなかにおいて、世界の社会主義システムの崩壊のあとにおいても、今日もなお、生き、活動し、確固たるものとなっている、と。

そしてまた、この世代はさらに次のように言うこともできます。革命はこの世代で終わらない。なぜならば、キューバという国の最良の息子や娘たちの多大な血を賭した社会正義という理念を継承する新しい世代を形成することができたからだ、と。

私たちが今日、受け取ったものは重荷や宿題ではありません。一つの国の運営だけではありません。私たちの前に存在し、引き続き挑戦していくものは、巨大な英雄的事業なのです。

それはセスペデスの果敢な蜂起であり、何人にも超えられないアグラモンテの羞恥心であり、マセオの尊厳ある非妥協性であり、ゴメスの印象的な策略であり、シマロン（逃亡奴隷）の自由への希求であり、戦争詩人の情熱であり、ジャングルの中のマリアナ（・グラハレス）の凄まじさであり、マルティのひらめきの光であります。

それはまた、メジャの創始者としての若さ、ビジェナの途方もない韻文、ギテラスの急進的反帝主義、マルティ生誕100周年世代である、監獄の柵の向こうのアイデーとメルバ、抑圧者に挑戦するビルマ、シエラの総司令部を組織するセリア、子どもたちを虐殺した独裁者に抗するキューバの母親たちの絶対的な献身であります。さらに、シエラ的女性小隊、カミロの限りない忠誠心、チェの万人のための遺産、フィデルの深く創造的な指導力、ラウルに支えられた継続であります。

さらに、それは、大蜂起（グラン・レベリオン）、地下活動、ゲリラ戦線、戦略的反攻、西進、決戦、ハバナへの凱旋、農業改革、識字運動、潜入した犯罪集団との闘い、民兵、ヒロンの勝利、10月危機、アフリカ、アジア、ラテンアメリカにおける国際主義協力、チェのゲリラ、そしてベトナム、アンゴラ、エチオピア、ニカラグアのために流された血、医療チーム、エリアン・ゴンサレス、ロス・シンコ（「5人の英雄」）、ELAM（ラテンアメリカ医学学校）、奇跡作戦（海外での白内障手術）、ALBA（米州ボリバル同盟）、ヘンリー・リーブ・ブリゲイド、高度な科学や医学や文化やスポーツ、大学、この地球上に再構築された人間の連帯でもあります。

私たちを結びつけるものは多々あります。そのリストに終わりはありません。しかし、それは同時に、キューバの人々が150年以上の闘いのなかで築き上げた偉大なモニュメントとは何かを示すものでもあります。

この歴史は二つの言葉にまとめることができます。人民と統一です。それは党と言えます。なぜならばキューバ共産党は、決して選挙政党ではありませんでしたし、党派から生まれたものでもないからです。深い人間的理想、外国列強に従属し、残虐な軍事独裁のくびきのもとに置かれた、不平等で不正な国を変えるための闘いのなかで苦しみながら築きあげられた理想を共有する、すべての政治勢力の「統一」から生まれたものなのです。

今日、私たちは、「私たちはキューバである」(Somos Cuba)、「キューバ万歳」と言います。単純で簡単に聞こえますが、もっとも残忍な包囲のただなかであって、主権と独立を達成し、維持することはなんと困難なことであったことでしょう。

すぐ近くの隣国は絶えず仕掛けてくる多面的な恒常戦を仕掛けてきます。キューバ革命にとっては一日一日が英雄的な創造の日となります。そのため、歴史的世代はその役割として常に新しい世代の養成に取り組み、主要な指導責任を少しずつ移行してきました。

何年にもわたるこうした忍耐強い活動のおかげで、今日、ここにおいて、私たちの政治史における一つの重要な段階に到達することができました。この第8回党大会は継承の大会です。この過程の主たる旗手は同志ラウル・カストロ・ルス革命軍将軍です（拍手）。

《卓越した政治指導者：ラウル・「モデスト」(謙虚)・カストロ》

私は2018年に国家評議会議長と閣僚会議議長に就任しました。そのとき、演説で示したかったことがありました。それは革命と党の先頭に立つ彼の活動に対する私たちの多くの者の気持ちと感謝です。

彼が大変謙虚な人であることはよく知られています。そのとき、彼は私が伝えたかった言葉をいくつか削除するよう求めました。今日、党のトップに就任することにより与えられた責任を濫用したいと思います。もちろん、事情は十分にわきまえたうえでのことです。国が抱える課題や戦略的事業に取り組む際にきちんと共有しておかなければならないことであり、これまで彼が準備を進めてきたやり方を自身が踏襲しなければならないときでもありますので、歴史的正義として、当時、私が記しながらも口を閉ざしてしまったことを申し上げたいと思います。

同志ラウルは、粘り強く、しかし、役職やそれに伴う責任に執着することなく、義務と歴史的瞬間への高い意識、冷静さと信頼感と確固たる革命的信念、愛他主義と慎みをもって、同志自身の徳や正当性、また、キューバがそれを必要としているがゆえに、この世代

継承過程の準備を整え、導き、指導してきました。今後も、国の方向に大きな重みをもつ戦略的決定が行われる際には手本とされるでしょう（拍手）。彼は、すべてに通じている人として、エネルギーに闘いながら、あらゆる誤りや欠点に対する助言や指導や警告を通じて、革命という大義に理念と目標を与えながら、そして戦いの前衛において最初に銃を持った人として帝国主義に立ち向かう構えをみせつつ、そこに存在することでしょう。

革命軍将軍はキューバのすべての共産主義者や革命家にとってレファランズであり続けるでしょう。ラウルは「私たち人民は愛情をこめてそう呼んでいます」、フィデルの最良の弟子であります。しかし、また、革命の倫理、党活動、政府の完成化に数知れない価値を与えてきました。

この10年間に、国の前線において彼の指導のもとで実施された事業には多大なものがあります。なかでも代表的なのは、脅威や侵略への抵抗や私たちの社会の完成化におけるその遺産です。

彼は経済的社会的に困難な局面において国の指導を引き受けました。政治家としては、コンセンサスを形成しながら、キューバの経済社会モデルの完成化と現代化の過程の一部として、深くかつ必要な構造と概念の転換の先頭に立ち、推進し鼓舞してきました。

ラウルは、国は債権者との約束を尊重するという約束と原則を守りつつ、誠実かつ尊敬をもって膨大な債務の再交渉を成功させました。これによってキューバに対する信頼は高まりました。

知性をもって討論を導き、重要な移民法の現代化を実現し、農牧部門の変革を推進し、偏見を捨てて経済の非国有部門形態の拡大、新外資法の承認、マリエル特別開発区の創設、キューバの国有企業強化に向けた制約の撤廃、観光部門への投資、社会の情報化計画、そして社会的成果の維持と完成化を、可能な限り、進めました。

忍耐と知性をもって、ラウルは私たちの「5人の英雄」の解放を実現し、「彼らは帰って来るだろう」というフィデルの約束を果たしました。

対外関係においては、彼のスタイルで、広範でダイナミックな活動を繰り広げました。確固たる姿勢と誇りと大胆さをもって、米国との外交関係再開を目的とした対話と交渉を自ら指導しました。

ラウルの政治家としてのまごうかたなき能力はラテンアメリカの統合の擁護者としても発揮されました。とくに抜きんでいたのはキューバが CELAC（ラテンアメリカ・カリブ海諸国共同体）の臨時議長の時でした。もっとも重要な遺産は多様性の中の統一を守ったことでした。それはラテンアメリカの平和地帯宣言につながり、コロンビアにおける和平のための対話に決定的に寄与しました。

ラウルは国際会議において、カリブ海諸国の権利、とくにハイチの権利を誰よりも擁護しました。私たちキューバ人は深い誇りをもって、パナマで開かれたアメリカ大陸サミットにおける彼の感動的な声と演説を聞きました。このサミットは「われらのアメリカ」の真の歴史を思い起こさせるものでした。

こうした活動を、彼は愛する人生と闘いの同志、われわれの素晴らしいビルマの病と死に向き合いながら行ったのです（拍手）。彼は彼女とともに革命への情熱を共有し、素敵な家庭を築きました。この頃にはまた、師であり兄であるだけでなく、革命の人生におけ

るもっとも主要なレファレントである同志フィデルの病と死にも直面しています。彼はフィデルに最後の最後まで忠実でした（拍手）。

ラウルは個人としての痛みよりも革命の価値と義務感を優先しました。ビルマの骨壺に口づけし、フィデルの名が刻まれた石に敬礼し、休むことなく、的確に、力づく、献身的に国を導きました。革命に対する功績には超越的なものがありました。

私たちが知っているラウル、私たちが感嘆し、尊敬し、愛しているラウルが政治の舞台に登場したのは、1952年4月、3月10日のクーデタによって踏みにじられた1940年憲法をシンボルとして埋葬した大学生グループの旗手になったときです。1953年1月には「たいまつ行進」の呼びかけ人の一人となり、直後の3月には第4回世界青年学生会議に参加しました。帰国後、モンカダ兵營の襲撃の一員になり、戦闘のチーフになりました。ピノス島に投獄されたあと、メキシコ亡命中に反バティスタ独裁闘争の準備に加わり、グランマ号で上陸し、シンコ・パルマスでフィデルに再会し、シエラ・マエストラで闘争を開始しました。その功績と勇気によって司令官に昇格し、模範的手法でフランク・パイス第2東部戦線を設立しました。

政治指導者としては、党活動の完成化のための議論を推進しました。その際、常に、大地に耳をつけて人民と強く結びつくことを求めました。忘れられないのは、国にとって極めて重要な瞬間における彼の決定的な言葉や決定です。それは、「インゲン豆は大砲と同じように大事だ」というものです。また、象徴的なのは「大丈夫、できる」という言葉です。これは特別期というもっとも暗い時代に国を元気づけました。

オリエンテ第2戦線の軍事指揮者であったとき、解放戦争のただ中にありながら、住民のための組織と統治の実験を行いました。これは革命勝利後に全国に拡大されることになります。また、半世紀以上にわたり革命軍省を指導しましたが、アンゴラやナミビアの独立、アパルトヘイトの廃止に対する貢献には決定的なものがありました。ラウルの指揮のもとで革命軍はもっとも規律正しい、効率的な国の行政機関となりました。その経験は後の企業の完成化における管理、持続可能性、効率、統制にとって貴重な概念となり、そこから革命軍企業システムが誕生しましたが、これは素晴らしい結果をもたらし、国の経済に貢献しました。

ゲリラ戦士ラウルは、自然との常なる接触と結びつきを通じて、環境問題に関する特別な感覚を身に着けました。これはのちに灌漑計画や気候変動対策計画（Tarea Vida）の推進につながっていきます。

キューバ革命総司令官（フィデル）はラウル革命軍将軍の胸を最も高位の勲章で飾っていますが、その後、第5回党大会ラウルの指導者としての活動に関して語っています。それは大変、当を得たものであり、ラウルの人柄についてよく示すものでした。血を分けた兄弟であり、理念の兄弟であるラウルについて、フィデルはこう述べています。「人生はわれわれに多くの満足や感動、多くの幸運をもたらす。われわれの党、われわれの革命、そして私にとって、ラウルのような同志をもつことができたことは本当に幸運であった。彼の功績について私が語る必要はないであろう。彼の経験、能力、革命への貢献について語る必要はない。彼の疲れを知らない行動、革命軍、党における絶えざる、秩序ある活動は良く知られている。われわれはそうした幸運を手にすることができた」。フィデルは、その幸運を「ラウル・モデスト（謙虚）・カストロ」と名づけています（拍手）。

同志の皆さん

《世界最長の経済封鎖・インターネット時代の侵略》

本大会においては、継承という総合的ビジョンを守りつつ、広範かつ批判的な議論が行われ、抵抗しながら前進するための道しるべとなるべき理念、概念、指針が打ち出されました。しかし、複雑な国内および国際的コンテクストについて可能な限り最大の知識を持ち、また、世界は劇的に変化していること、資源小国、とくに主権をもちたいと努力する諸国にとってはさらに扉が閉ざされているということを知りつつ、この挑戦に立ち向かっていくことが不可欠です。

今日のコミュニケーション手段、デジタル網を支える技術機器、そしてコンテンツの作成に使用される資源の高度な集中と多様性と複雑さは、強者のグループに対し—これは基本的には高度に発展した諸国のものですが—、そして多くの場合、どのようなインパクトを与えるかなどはまったく関係なく、理念、好み、感情、イデオロギー的潮流を世界標準に変えることを可能にしています。こうしたコミュニケーションの魔術師たちにとって、真実は、交渉できるものであるだけでなく、悪なのです。かれらは、自由で独立した国の意思を破壊することができなかつた地において、嘘のマトリックスやあらゆるタイプの操作や卑劣な行為を広げることによって政治的不安定を醸成し、政府を倒そうとしているのです。

「ポスト真実」の時代においては、いかなる人民も嘘や中傷から安全ではありません。キューバは他の世界と平和を維持しつつ、外国の干渉や後見なしに、公正で主権をもった社会主義社会を建設するという固い意志を保持しています。しかし、その一方で、日々、そうした現実と直面しているのです。

基調報告では、わが国が特殊な挑戦と直面していることが率直に明らかにされています。この挑戦はとくに米帝国主義の支配とヘゲモニーの企てに由来するものです。それは国外にも及び、そのインパクトはあらゆる面で私たちに打撃を与えており、とくにこの4年間は質的にも極めてアグレッシブなレベルに達しました。

最低限の正直さを持ち合わせているならば、公開された経済資料を見るだけで、この包囲がわが国の発展や繁栄や福祉の追求の推進に主要な障害となっていることは何人にも否定できません。だからといって、私たち自身の現実の不十分さが押し隠されるわけではありません。この点は私たちも十分に自覚しています。問題は、シニズムから封鎖は存在しないという考えをひろめている人々に応えることなのです。

米国は60年以上にわたりキューバに対し経済、貿易、金融の封鎖を課してきました。それはこの大危機の30年間に日和見主義的かつ卑しい形で激化しています。封鎖は飢餓や貧困を引き起こすことによって社会不安を醸成し、革命の合法性を掘り崩すことを目的としています。実施期間はすでに最長になります。それは人々の人権を侵害するものであり、人道に対する罪であります。

この歴史的違犯行為がキューバの人々の意識や心から消えることはないでしょう。私たちは何倍も上の敵のどてつもない残忍さを自らの体で感じています。彼らはその鼻先に、確たる原則と社会正義と人間の連帯という理念を基礎に据え、独立と主権—これは私たち

の決意の基本的指針を支えですーを有する、より公正かつ公平なオルタナティブ社会が建設されることを受け入れられないのです。

私たちがかかえている主要な問題に封鎖などまったく関係ない、などと誰も言わないでいただきたい。それでは帝国の不当な力を否定することになってしまいます。グローバル市場や金融に対するその支配は絶対的であり、他の諸国の政府の政策に対する影響力も決定的です。中には、自分たちは同盟者であると信じて、追従者として行動している諸国もあります。

この点は、恐れることなく、一度ならず、繰り返し、主張していかなければなりません。何よりも、彼らはこれほど長期で、これほど無効な犯罪をやめなければなりません。このような犯罪に終止符を打つべきだという主張を、私たちは現在もこれからも、この冷酷かつジェノサイド的政策が続く限り、休戦なき不断の闘いとして続けていきます。私たちは国際社会から支持を受けており、それは数知れない機会において確認されていること、また、在外キューバ人の大きな部分からも支持を得ていることを承知しています。

今日においてもドナルド・トランプ政府が課した 242 の侵略手段は未だに有効なままです。米務省がテロ支援国とみなす諸国の、偽りの、恣意的なリストにキューバが加えられ、それに基づいた政策も実施されています。米国の役人にも、その他の諸国の政治家にも、キューバが本当にテロを支援していると本心から言明する人はいないでしょう。テロの大多数は米国から組織され、資金を供給され、実行されているのであって、私たちの国はその犠牲者なのです。

米国の機関や団体が推進する反乱やイデオロギー的攪乱キャンペーンが続いています。それはキューバを貶め、革命を誹謗し、人民を混乱させ、落胆や無関心や反抗心を刺激し、国内の矛盾を高めることを目的としています。物資の不足など、グローバル経済危機や COVID-19 の感染拡大や経済封鎖の結果としてわが国住民が直面している困難を利用しようとするものです。

キューバは米国にとって優先問題ではないと言われていますが、主権国家としては、なぜそうであるのか、わかりません。この点については以下のような疑問がでてくるのではないのでしょうか。まず第 1 に、キューバと通商関係や協力関係を持つ、あるいは持とうとする第 3 国を強要することによってキューバを侵略し、その方向を統御することを目的とした法律が、一例えば二つだけ例をあげるならばトリチェリ法やヘルムズ・バートン法が、なぜ、存在しているのか。なぜ、キューバの立憲秩序を崩壊させるためにこれほどの年月や何億ドルもの資金をつぎ込んでいるのか。なぜ、キューバの人々の国民としての自覚を掘り崩すために、これほどの時間と資金を費やしているのか。また、60 年以上にわたる残虐で、たえざる経済戦争を正当化するものは何か。なぜ、道徳的、法的に持続不可能な政策を維持するために、国連その他の国際会議の場で明らかになっているように、国際的孤立という代価を支払っているのか。

私たちの願いは、国際社会の他の諸国ともそうしているように、北の隣人とも、相互の平等と尊重を基礎に、いかなる干渉もなしに、平和裏に生き、関係を結ぶことです。それが党と国家の立場であり、人民の意思でもあるのです。

米国政府が対外政策の優先事項として気候変動との闘いを掲げたことは注目に値します。COVID-19 のパンデミックなど健康への脅威への挑戦、人権促進、移民問題なども同様に

す。これらは国内政治や対外政策におけるこの国の実際の行動やその歴史的軌跡とは対照的なものです。その例は良く知られています。

逆説的ですが、前に示した4つの疑問は、両国人民の利益と互惠という観点にたって初めて相互協力の可能性の追求が正当化される領域の問題であり、しかも、誠実に、かつ結果を達成しようという意気込みをもって、きわめて複雑な問題を本当に解決していこうという姿勢が求められます。

今日、とてつもない環境問題、世界の行動変容を迫るとともに、頭上に降りぐグローバル危機を深刻化させているパンデミックなど、世界は不安の時代にあります。こうした時代にあって、党はその中心的活動を革命の防衛におかなければなりません。党は革命の外交政策を指導していきますが、それはよりよい世界は可能であるという考え方を基礎としています。その実現のための闘いには多くの人々の参加と諸国人民の動員が必要です。

これは私たちの国際的活動の変わらぬ指針です。本党大会においてもそれを確認しました。

私たちは世界のいかなる国とも友好と協力の関係を発展させる意思を表明します。たとえ政府のイデオロギーが相容れない諸国であっても国際連帯を実行できれば嬉しく思います。ある国にとっては大変不快なことであっても真実をはっきりと表明し、原則を守り、正義という大義を分かち合い、私たちが外国の侵略、植民地主義、人種主義、アパルトヘイトに対してそうしているように、蹂躪に対しては共に立ち向かうことを再確認します。

これは、「われらのアメリカ」の完全な独立という私たちの願望と、経済的社会的に統合し、平和地帯としてのラテンアメリカとカリブ海の義務を守ることができる地域の実現を支援するという熱意を基礎をなすものです。

この対外政策は党大会の基調報告に記され、本日、承認されました。

同志の皆さん

《一党制と共産党の民主化・国民の参加》

今日のような状況に抗い、立ち向かうのは大変難しいことであり、それは私たちが望む繁栄への歩みを遅滞させています。私たちは国民の求めや必要性に対する配慮を放棄することなく、一つひとつの決定について議論し、複雑な行動や手段をとりながら、プロセスを開始し、実施してきました。しかしながら常に理解や成果が得られたわけではないことも確かです。

これは苦情で言っているわけではありません。真の革命においては勝利とは学習です。私たちは確証された道を歩んでいるわけではありません。私たちのもっとも確固たる原則を放棄することなく、変えるべきものはすべて変えるという、常なる革新に挑戦させられています。革命という偉業の不敗の指導者が私たちに遺していった「革命」という概念から離反することなく、しかし、硬直したくびきからは自由に、また、歩みながら道を作るときには過ちというものがあり得るという自覚をもって、そうしています。

革命軍将軍は基調報告で中国とベトナムの経験を示しました。これらの国では経済や住民の生活水準が明らかに向上しています。それは社会主義的計画化のポテンシャルの高さを示すものですが、その過程においては一度ならず修正が行われています。両国でも、その期間はより短く、激しさもより低いものでしたが、経済封鎖が行われました。

このような状況下では党活動が肝要になります。これからもそうでしょう。政治的前衛の活動が存在しない「この瞬間」を想像することはできません。この時代と、この時代が迫る挑戦に一層即した、党の活動形態の変革が急務です。

キューバ共産党は私たちの本質とその擁護によってこそ、存続します。私たちの本質とは、独立、主権、社会主義的民主主義、平和、経済効率、安全保障、そして社会正義の確保です。すなわち、社会主義！です。これにさらに繁栄のための闘いが加わります。繁栄とは、食料からレクリエーションまで含み、さらに科学の発展、高度な精神的豊かさ、福祉を包摂し、実用的なものと美しいものとのデザインをエンパワーします。

社会主義を守ることが大切です。なぜならば、それはさらに公正で、公平で、均衡がとれ、インクルーシブな世界の必要性に対する回答だからです。それは、資金や資源を有する人々だけではなく、すべての人々が入れるスペースを、知性と感受性をもってデザインする現実的な可能性なのです。あらゆる正義を勝ち取るというマルティの切なる願望を具体化できるシステムは他にありません。

このような目的を実現するための主たる力は統一です。すべてが、すなわち夢や心配事も、また共通の危険に対する不安も、私たちを一つにします。差別なしに、偏見やドグマや、あるいは人々を不当に分裂させる区分けにスペースを与えることなく、この統一を守っていきましょう。

こうした統一を党から築き上げ、維持していくために不可欠な要素の一つは党員の模範です。そのためには各党員は公的な活動が求められますが、人民の心からの感嘆と尊敬を呼び起こすのは、その能力、献身、結果です。人民は偽りの約束やモラルのダブルスタンダードを遠くからでも見分けることができます。

世代間の継承はこうした統一の基本的部分です。若者は最も重要な世代であり、そのよなものとして若者と話し合い、活動を分かち合うことが重要です。つまり、彼らを現在、進行しつつある変革の担い手として重視することです。状況が求める行動や革命的寄与のための力、姿勢、誠実さは、彼らにこそあるのです。それはパンデミックが最高潮に達したときに献身的活動や責任感という形で示されました。

今日において、党の役割は、歴史的世代の功績によって手にすることができた権威を確立し、私たちの組織の指導力とモラルの権威を維持することにあります。

この目的を達成するには、社会が直面するもっとも緊急な問題にたいする党の機能の力学と党員の積極的活動を強化することが不可欠ですが、それは単一政党であるという党の性格を前提として行わなければなりません。私たちの党は、常に、さらに民主的で、さらに魅力的で、さらに人民全体に近いものとして存在するということに挑戦していかなければなりません。それは党そのもののあり方に関わる問題であって、現段階に限られた問題ではありません。

この点については党大会の前にも、党大会中にも、十分に議論されましたが、党外の活動を拡大するためには党内部の活動を強化する必要があります。この点についていくつか考えを述べさせていただきたいと思います。これは、社会の機能に真の関心をもってそれぞれの領域で計画を立案する能力と、同時に、社会爆発を引き起こそうとするキューバ国の敵の計画を打破できる力を有する、指導力ある前衛として真に機能するためです。

支部内部で誠実で有意義な議論を進め、国民の議論を鼓舞し、学生や様々な専門や仕事をもつ若者との定期的会合を支援すること、この点については、本日、私たちは十分な合意のもとに、きちんとした文書にまとめました。

今は、支部で議論を進めるために冊子を作製したり、調整や分析に時間を費やす時代ではありません。この時代の力学は私たちにさらに敏捷で、時間を要しない、オリエンテーションを伝えるための革新的手段を求めています。インターネットの時代であり、すでに数百万人ものキューバの人々が携帯電話から世界について一定の考えをもつようになっています。私たちの黨員へのメッセージは昔の印刷という、ゆっくりしたルートを通じたものであってはなくなっています。

これも総司令官の遺産ですが、もっとも重要な前提は、決して嘘をつかないこと、そして倫理原則を侵さないことです。そこにこそ党の確固たる権威が宿るのです。黨員は、いかに厳しくとも、また、いかに困難に見えようとも、常に真実を語り、評価することを求められます。私たち革命の幹部はこの原則のもとで教育を受けてきました。また、私たちすべての黨員は常に真実を闘いの第1の武器として握ることを求められています。これが私たちが構成している前衛の使命なのです。

真実というものは、明白かつ時宜に適して表現されるならば、常に模範となり、模範を示すということと不可分です。私たちの指導能力はいかにそれができかにかかっています。私たち人民は部隊の先頭に常に最も勇敢な人々が存在していました。そのような人民は、私たちが、私たちを養成してくれた人々のように行動することができる力をもつ限りにおいて、前衛として受け入れ、認めるのではないのでしょうか。

革命の中で最も革命的なものは党であり、また、常にそうでなければなりません。同時に、党は革命を革命する力でなければなりません（拍手）。

私たちは、私たちの知識人や芸術家、教育者、医師、ジャーナリスト、科学者、クリエイター、スポーツマン、また、専門家や技術者、学生、労働者や勤労者、農民、革命軍や内務省の戦闘員が、党や共産主義青年同盟のメンバーとして、常に革命を革命する原動力となっていることを目にし、感じています。

また、この政治勢力がモノカラーであったり、互いに同質であってはならないこと、さらに表現する際に異口同音であってはならないことを理解すること、それが党の幹部としての私たちの義務なのです。私たちは森の、そして、革命がそれを必要とするときには、びっしりと列や方形を作る木々の力を評価する能力をもたなければなりません。統一とは森とともに木を見なければならぬということを決して忘れないようにすることが肝要です。たとえ統一していると感じられたとしても、集団と個人は同じものではありません。プロジェクトが前進し続けるには正当性が保持されることが必要ですが、そのためにはそれぞれの独自性について深く認識することが出発点になります。

私たちは困難の重みに負けてはいられません。人民の動員に新たなバイタリティを与えることが必要です。人民のイニシアチブのもとで私たちは強くなっていくのです。

多くの場合、ルーティンが私たちの過程を覆ってきました。いま、無為を改め、優先課題について誠実で、意味ある議論を進めることが急務になっています。それぞれの場において、また支部の営みへの幹部の参加を得ながら、いかなる活動を行うかを決めていかなければなりません。

党の戦列の拡大を、真の関心を喚起し、社会的反響をもたらすような過程につなげていくこと、党員の説明責任から地区や州における政治活動の日常の力学に至るまで、より魅力的な活動方法を生み出すことです。

キューバの人々の生活の質的向上のための闘いをしっかりと、かつ透明性をもって議論し、若者たちが生来もっている情熱を国のあらゆる不可欠な事業に組み込んでいけば、党の真髓を活性化できるでしょう。

腐敗、不誠実な行動形態、権力の濫用、えこひいき、ダブル・モラルに対する闘いの旗手となることは私たちの義務です。

労働や、社会や家族や交友サークルにおける私たちの行為が、私たちが守ろうとする価値と一致するようになってほしいと思います。

党の規律、集団指導、社会主義の実現可能性やマルクス・レーニン主義の理念やキューバの思想、とくにマルティとフィデルの思想の伝統に関する学習やイベントの推進—これが、今、党という私たちの学校に求められている課題です。併せて近代的な指導技術や広範な文化的歴史的基盤をもった理論や運営形態の構築も必要です。私は、私たちの活動の柱として党内部のすべての過程の情報化、科学や革新に依拠した最も複雑な課題の議論や解決、さらに社会的コミュニケーションの創造的発展を、活動の中心に据えることが不可欠であると確信しています。

解放のためのオルタナティブを常に追求するという党の作業においても、科学や技術の活用が緊急に求められます。これは党活動の発展のための過程の一部でもあります。

マルクス主義は計り知れない価値を私たちに遺しました。科学や技術は社会過程から分離できない部分であること、また、科学・技術と社会の関係にこそあらゆるプロジェクトの展開を透視し、その将来を見通す鍵があります。それは、知識に基礎をおく社会主義経済、日ごとに知的基盤を強化していく社会を建設するための道です。それこそが新しい世代にとって保証された水平線なのです。

目の前には多くの課題が待ち構えています。とくに食料の安全保障と主権、工業発展、エネルギー問題など、発展目標に向けて国の活力を動員するために、党員が積極的かつ率先して参加していくことが求められています。このほかに、そして、まず第1に、防衛のための準備、制度的秩序と社会主義的法治国家の強化があります。

私たちは新憲法に則った法律と、正義や社会的公正と結びついた社会主義的民主主義の強化を基礎に据えて活動を続けていきます。人権の完全な履行、有効な代表制、繁栄し、民主的で、持続可能な社会主義へ向けての経済・社会過程への完全な参加です。これらすべてを、官僚主義、過度の集中制、非効率という重荷からさらに自由な環境のもとで進めていきます。

こうした目標が成功するか否かは、住民と対話し、すべての市民の気持ちを高め、巻き込み、社会的責任に大きな意味や重要性を与えるような価値をその心に呼び起こすことができるか否かにかかっています。民主主義というものは参加を拡大すればするほど社会主義的なものになること、この点を自覚しつつ、参加が有効なものになるよう、要求や提案に配慮し、評価し、適用するためのスペースや手続きを作りながら、国民の参加を刺激していくことが私たちに求められています。

参加を通じて国民の要求や必要性とつながりを持つことが大切です。それは今日における党の事業の基本的活動の一つとも結びついています。すなわち、社会的コミュニケーションです。これは未だに十分に理解されていませんし、経済的政治的緊急事態を前にしているときには二義的な問題であるという誤った評価も見られます。経済的政治的緊急事態は、時には、社会的コミュニケーションが有する特別な重みを過小評価した結果でもあるのですが、まるでそうではないように思われることもあります。

基礎組織をはじめとする党組織のスペースは、党内部においても、また国家、政府、大衆組織、市民社会の構造との関係においても、形式主義や押しつけや不要な指導を排し、交流や革命的議論を率先して進めるものとならなければなりません。これは革命的なことです。プロセスが完成化し、強化され、留まることも鈍化することもなくなれば、関係者は不安から解き放たれるのです。

私たちは、キューバの安寧を共有する党员や非党员のなかにあつて、有効な解決方法を見出していかなければなりません。そのためには、現実に対する完全な理解を、日々の実践にを通じて、下部から得られるようにしていかなければなりません。それぞれの人々、それぞれの集団、それぞれの大衆組織こそが重要なのです。闘いは私たちのもの、すべての人々のものであり、そこに私たちは努力を集中しなければなりません。問題は、生き残り、品位、尊厳、そして、達成した成果を維持することです。

同志の皆さん

《許されないのは「誤りを犯すこと」ではなく、誤りを修正しないこと》

状況に立ち向かい、状況を変えようという私たちの意思において放棄してならないものは何か。革命はそれを示してきました。私たちが提起し、実行しているものすべてにおいて、献身、信望、幸福、節度、権利、効率、質、思いやりの文化、美、徳、名誉、尊厳、そして真実を守っていきましょう。

こうした党の実践を通じて、「秩序化」(Ordenamiento)においても倫理と徳という価値の回復や評価や強化を進めていかなければなりません。これらの価値によって私たちはここまで到達することができたのですが、しかし、この数十年にわたる逆境や相次ぐ困難な状況のもとで打撃をうけていることも確かです。

今日、新自由主義は破綻し、信用を失墜しているとはいえ、なお、不当な国際経済秩序を押しつづけています。これに対しキューバの行動路線は、より良いグローバルなあり方を希求する人々の中に感嘆、驚き、さらにはあらゆるタイプの好意的感情を生み出しています。こうしたキューバの姿勢は、また、北の隣人やその従者、売国奴や併合主義者、帝国の企図に屈服する従順な者たちや卑劣な者たちの落胆、絶望、無力感を高めています。彼らはみな、不倶戴天の敵として革命を攻撃し、不信感を醸成し、統一を破壊するために、もっとも邪悪な計画の策定に励んでいます。

経済的包囲というボルトを締めつけることによって、硬直し、前進を阻まれ、遅滞した革命、解決方法も提供すべきものも何ももない革命、対話も進めず、参加も擁護せず、幸福も与えない革命という思い込みを侵透させようとしているのです。われわれから話題や言葉やフレーズを奪うことによって、意思を麻痺させ、感情やパラダイムを破壊しようとしているのです。革命を葬るために金銭が怒涛のように駆け巡っています。

私たちは閉ざされた社会ではありません。この革命過程は弱体で、時代遅れで、硬直的なものでもありません。60年間にわたり私たちは想像を絶する圧力のもとでまったく新しい、挑戦的な政治プランを確実なものとしてきました。そして成長し、前進し、完成化の過程で幾たびも修正を重ねてきました。

イデオロギー闘争についてはフィデルの言葉を想起したいと思います。彼は私たちに、文化は守らなければならない第一のものであるだけでなく、文化を守るためには私たちは常に知識人や芸術家の対話者でなければならない、ということを示してくれました。

また、それは関係者双方にとって心地よい対話ではないかもしれないが、しかし、それは恒常的な過程であり、そこでは尊敬と共に活動するという意思とが真に試される、ということも教えてくれました。

革命は創造的思想を恐れません。それだけではなく、それを高め、育成し、その成長と発展のための場を開き、それを容認し、その成果をとりいれていきます。文化の教育と振興のためのシステムを作ってきたのもそのためです。このシステムはこれまで、最も厳しい年月も含めて、キューバの創造者の作品の物質的、非物質的遺産の最も価値あるものの保護や保存に資してきました。

政治とイデオロギー分野における学びは、何らかの過程に加わるすべての勢力に関わる問題です。許されないのは、過去において誤りを犯したこと、あるいは今、誤りを犯しているということではありません。許されないのは、誤りを修正しない、ということではないでしょうか。

この点では私たちは一貫しています。修正してきましたし、修正し続ける意思が存在しています。経済その他の分野と同様、理念の分野での発展についても同じです。

《ポスト真実の時代—デジタル技術を駆使した非通常戦との闘い》

シルビオ・ロドリゲスとサンティアゴ・フェリウがデュオで歌う美しい歌に、「嘘が勝つたびに、何度、疑ったことか！」という歌詞があります。大メディアやデジタル・ソーシャル・メディアは際限のない不正な工作や嘘の有功なプラットフォームになっています。人が偽りのニュースを疑ったり、あるいは同意したりするたびに、その陰で彼らは小さな、悪意に満ちた勝利を得ているのです。

ある種の芸術活動や政治活動、その他の活動の表現者たちが、どのような状況のもとでそれを行っているかなどわかっていない、あるいはそのようなことには興味がないと思っていると考えるならば、無邪気と言えるかもしれません。臨機応変とオポチュニスト、自由と無定見、独立主義者と新併合主義者、超越と無責任の間には、紙一重の、脆い距離しかありません。

何の考慮もなくわれわれの経験を排除するために極右から最も激しい陰謀が執拗になされていることや、われわれが計画通り死ねば、われわれが自決というオプションを得ることなど決してないことすら認めない、そのような無定見は、結局、国や時代に対する犯罪的な無責任で終わるのです。

文化からの植民地化について語るのはここまでとして、次に、最も保守的な極右からの、絶望的で、情け容赦ない戦争について話したいと思います。彼らは、あらゆる進歩の場に

先んじるべく焦り、左翼のすべてのプロジェクトを破壊するという妄想のもとに、あらゆる手段に訴えています。

彼らはいつでも入手可能で、常に先端的なデジタル技術を用いて、論理や感情に公然と戦争をしかける社会病質者です。政治システムだけではなく、人間にとって真に緊急に必要なもの、私たちを種として結びつけているものを攻撃しています。それは最も危険な戦争ですが、しかしまた、もっとも卑劣な戦争でもあります。

革命の敵がキューバに対し非通常戦をしかけていることは無視できません。この戦争では、陳腐で、俗悪で、下品で、偽りのものすべてが価値をもつとみなされています。しかし、それは感受性や文化や思想の脇腹をくすぐろうとするものです。

この自由の守護神たちは、価値というものが何であるかすら知らないまま、それを悪用し、何百万人をも解放した革命を解体しようとしています。

厚顔にも、祖国の歴史におけるシンボルや最も聖なるスペースを冒瀆し、不服従や抵抗や無秩序や無規律な行動を捏造しようとしています。そのために、偽の現実を構築することによって混乱させ、意気消沈させ、否定的感情を生み出そうとしています。

キューバ革命は裏切られることも、また、祖国の運命をもてあそびつつ生きようとする人々に贈り物として差し出されることもないでしょう（拍手）。私たちは、アルティビスタたち―彼らはそのように自称していますが、カッコつきです―、カオスと俗悪と不敬のアクティビスタたちが、国旗を汚し、権威を侮辱することを許さないでしょう。彼らが自分たちに金を支払った人々の命令を実行するために絶望的になって逮捕されようとしているのを見て見ぬふりはしないでしょう。金銭の提供者たちは、キューバに関する卑しい報告書を作成するために信頼し得る犠牲者を今になって見つけたわけではありません。

すべての人々の運命から利益を得るルンペン雇い兵に対して、「今こそ侵略を」と求める人々に対して、また、体を休めることのできない人々を言葉や行為で絶えず傷つける人々に対して、「この人民の忍耐には限界がある」と警告するのがよいでしょう（長い拍手）。

徳とは、私たちより前を歩み、私たちをここまで連れてきてくれた人々が私たちに託した祖国を守るために、結束できるということにあるのではないのでしょうか。

最悪のシーンにおいても、党員は、挑発を受身になって傍観したり、同志がたった一人で挑発者に立ち向かっているのをただ見ているだけであってはなりません。革命を守るのは革命家なのです（拍手）。革命家のなかでは共産主義者が先頭に立ちます（拍手）。それは決してエリートとしてではなく、自覚と責任感をもった勢力であるという資格のためです。これは、政治的前衛であり、そのような者として行動する、ということの意味します（拍手）。党の戦列を構成していることに誇りを感じ、党員であるということは党が情熱と喜びと責任感をもって守っている理想に献身する行為である、と捉えなければなりません。

今こそ、すべての社会コミュニケーション手段について理解し、利用するときです。とくにネットでの作業です。社会を揺るがす課題を取り上げ、市民が利用するあらゆる機関を通じて意見を交換し、時宜に適した回答を提示し、参加と透明性と評価を容易にし、国を動かす気概を示すためです。

革命家として私たちの闘いに向き合うためにはあらゆるコミュニケーションのスペースを活用し、歴史の重み、愛国の理念や信念、集団指導の要点を感じるようにし向けていかなければなりません。これまでになされたすべての良きものと、同時に、今後も実施し続

けていくことができるもの、また、実施し続けるべきものを、自らの声で語り、私たちの知性と決意を示していかなければなりません。

私たちは体系化され、組織化された国に生きています。敵意に満ち、息が詰まるような現実の荒波に抗いながら必死で活動しています。しかし、さらなる福祉社会へ向けて前進していかなければなりません。こうした真実を、それぞれのプロジェクトについて、また、逆境を超克するための抵抗や建設のそれぞれの舞台において、情報、教育、例証を順次、提供することによって、日々、感じてもらうようにしていかなければなりません。

もったいぶった態度をとったり、誇示したりすることなく、それを実行すること、真実と徳、確信と一貫性、気品と節度を基礎に据え、また、重圧や拒絶を引き起こすような演説を行うことなく、論理と感性、感受性と共感をもって、内容のあるものを提供していきましょう。祖国の最も身近な場から、すなわち町や村、小さな土地、共同体、工場、学校、作業所、家族などから、日々、抵抗している人々の言葉で、組織の言辞と公衆の要求との間の裂け目を狭めつつ、やっていきましょう。

革命とは真の対話です。卑猥な行為や邪悪ではなく、真実や倫理を優先するものです。革命の存在を取引したり、雇い兵を正当化したりしません。確信をもって毅然と行動します。

女性の解放、性暴力や人種主義や差別への反対、環境や動物のケアや保護のための闘いを前に進めるために、客観性をもって議論していきましょう。そして、人々の懸念に対し、回を重ねるごとにより正しい回答を与えていくためには、さらに前進が必要であることを認識しましょう。

人種主義行為や差別行為との闘いにおいて、また、キューバ女性の権利の擁護においてアクティブな革命的黨員になりましょう。

同志の皆さん。

《経済情勢の悪化のもとでも「秩序化」は推進しなければならない》

決定的課題となっている経済闘争について少しお話しさせてください。この闘いなくして他の闘いはすべて無駄になり得ます。

本大会では5年間の評価が行われました。それによれば良い経済的成果は得られていません。企業システムや予算部門のかなりの部分の非効率や非能率の影響もあります。発展を阻害する構造的問題が存在し、また、不可欠とは言えない多額の支出の問題や物資的資源や資金に対するコントロールの欠如もこの期間中に解決されませんでした。不必要な制約や官僚主義などの悪も経済発展を阻んでいます。この解決は私たちにかかっています。

この5年間には様々な種類の困難がありました。しかし、それでも経済は対応能力を示し、社会的成果の維持を可能とし、予想された発展目標を放棄するということもなく、また、他の諸国の人民への連帯支援もできました。

キューバは、政治的意思、革命の人道主義的使命、政府の対応、人間的であるということを中心に据えた公共政策、主だった政策決定者と科学者との対話、そして人民の参加というものがパンデミックのような複雑な問題に対しても、たとえ相対的な成功であったとしても、対応できるのだということを示しました。資源もなく、包囲され、残虐に封鎖された小国が、世界やラテンアメリカの多くの諸国よりもより良い指標を実現しました。わ

が国の経済は完成化やさらなる効率化が必要であると考えていますが、そのような経済のもとでもこの成果は達成されました。率直なところ、重要な社会的成果も得られました。

私たちは生き残りのために国の潜在的な力を維持するだけでは良しとしてはいないこと、これを党は確認しておきたいと思います。そうではなく、私たちの発展プランを放棄することなく、それらを完全なものとし、その概念を現代化し、実行と参加の形態を近代化することによって、創造的に抵抗していきたいと思っています。

私たちには、最小限の期間に、道は私たち自身に、キューバ島の中にあることを認識しつつ、自らの力で、外部に依存することなく解決しなければならないものがあります。すなわち、必要な食料の生産、再生可能エネルギーの最大の活用、観光業の潜在能力の持続可能かつ質的な利用、投資過程の効率化、国内市場の需要の解決へ向けた国内生産の誘導、住民に提供されるあらゆるサービスの質的向上です。

いかなる経済形態にも基本的なコンセプトというものがあります。私たちは最終的には蓄積や循環型経済などを掲げていかなければなりません。輸入メンタリティをなくすことも求められます。

危機を克服するためには経済社会モデルの現代化過程と、2030年に向けた経済社会発展戦略と全国計画の実施を力強く進めていくことが必要です。そのためには必要な計画化と、地域の発展に不可欠な分権化と自治との関係を、国有企業、マイクロ企業や中小企業、協同組合を含むすべての経済アクターの参加に柔軟に結びつけていかなければなりません。

すなわち、創造的に、それぞれの状況を深くかつ現実的に分析し、専門家の知識を結集し、国民の参加や革新を促進しつつ、立ち向かうことです。

「秩序化」は、必ずしも常に、その実施責任者によって十分に理解されているわけではありません。その過程は大変複雑なものになりますので、この事業には当面、多くの政治活動が求められるでしょう。

パンデミックに加え、日和見主義的封鎖の激化によって予想外の挑戦を迫られるなかにおいて秩序化という作業を実施すべき時期であるのかどうか、さまざまな議論が行われてきました。答えは一つです。すなわち、この変革は発展とあらゆる経済アクターを結合した参加を促進するためのものであり、引き延ばし続けることはできないということです。

正直なところ、秩序化の実施に際しては問題がありました。何人かの指導者の準備不足や規範の不適切な解釈に起因するものですが、同時に、秩序化を、その実施以前から存在していた問題と結びつけるという誤りから来る無理解もありました。さらに、必ずしも適切でも正確でもない主張から来る不満や、なかにはこの事業の原則からかけ離れた、認めがたい要求もありました。

これに対して、まず第1に私たちが行ったことは、住民の批判的な提案に対して、常に可能な限りにおいてですが、早急に検討し、解決を見出すということでした。それは市民の参加という重要な実践を促進することになります。この点は調整、修正、変更がなされていることからわかります。税や価格、食料の生産や流通を改善し刺激するために最近とられた政策は、こうした戦略に沿ったものです。私たちは目標の実現に資するよう、再度、メンタリティの変化に訴えていきます。いまや、呼びかけから転換へと移るときです。

私たちが行うことがすべて、キューバの人々の可能な限り最大の幸福につながるものであること—これは私たちの社会主義の本質から発するものですが—、その限りにおいて私たちは勝利できます。

今日の状況や、議論を通じて出てきた目標は、キューバの指導者に極めて高度な挑戦を突きつけています。社会やその機関は、倫理的にも専門的にも深い素養をもった幹部を必要としています。これらの人々は、革命的探究心、人民がかかえる問題に対する感受性、献身への姿勢や革新の原動力となる想像力をもって逆境に立ち向かう能力など、優れた資質が求められます。いかなる状況においても、基本的には、最も困難で、挑戦が求められる状況において、私たち幹部は任務への献身、熱い克己心、謙虚さ、自分よりも「私たち」を優先し、他の人々の立場に立つという感受性において優れていなければなりません。誠実かつ心からの対話を行い、決定の際にはそこから出てきた意見を進んで取り入れるという責任もあります。

本大会は幹部の養成のための戦略を採択しました。幹部の選出、養成、昇進に対する科学的取り組みも含んだものです。その際にはそれぞれの責任に応じた昇進段階を考慮しなければなりません。

同胞の皆さん。

《トンネルの闇の中に光が》

昨年は封鎖とパンデミックが重なり、私たちの企図や夢を中断せざるを得ませんでした。私たちは、日々、困難を前に奮闘してきました。時には危機を乗り越えることができないのではないかとも思われるときもあるかもしれませんが、不安のただなかであって、突然、私たち自身の抵抗や創造の力が脳裏をかすめ、光を与えてくれます。

邪悪なほどに封鎖された小国が、基本的サービスの活力を維持し、感染者やその疑いのある住民をすべてケアし、記録的な期間に 20 以上の分子生物学の研究所を整備し、人工呼吸器や検査キットの試作品の設計と製作を行い、5種のワクチンを開発し、今、全国民へのワクチン接種と他国への供与に十分な生産を行うところまで到達しました。また、世界の様々な国民に医療協力を行い、賞賛と感謝を受けています。トンネルの闇の中の光以上のものと言えます。これは私たちが歴史の正しい側にいること、社会主義革命という事業がこれほどの潜在能力と成果をもっていることを示す証しです。歴史のいかなる時代においても、最大の帝国にすらできなかったことです。

こうした議論の余地のない偉業にわたしたち人民は名前をつけました。それはフィデル・カストロ・ルスです！（拍手）。

フィデル・カストロ総司令官は、統治することは予見すること、というマルティの教えに従い、キューバの先行きがまったく不確定であった頃から、わが国や世界のために、バイオテクノロジーの発展、薬品やワクチンの生産、医師の養成を進めました。彼は前を見た人、ずっと遠くを見た人、人類がその夢を推進できるところまで見通した人でした。多くの人々の驚愕の目の前で、キューバが浮上し、過去数百年間における最悪のパンデミックから自国を救い、世界の救済に貢献している今日、彼はなお、手本であり続けています。

白衣を身に着けた、ヘンリー・リーブ・ブリゲイドのメンバーの女性や男性たちがキューバの国旗を掲げて飛行機のタラップを降り、対価などには目もくれず、人命救助に駆け

つけています。それとともに、キューバに対する嘘や卑劣な行為が湯の中に入れた氷のように溶け始め、私たちの真実が救命行為とともに広がっています。

キューバのすべての同胞のみなさん、日常活動にいそしむ革命の闘士の皆さん。

本日、選出された、キューバ共産党政治局、書記局、中央委員会のメンバーはキューバ革命の継承という途方もない使命を引き受けます（拍手）。

私たちは、数年間の党の活動や事業への献身のあとに、今日、数人の同志と別れを告げます。これらの同志は、それぞれ職務は異なりますが、近年、きわめて厳しい状況のもとで国が推進し、勝ち取ってきたものすべての一部を構成しています。その誰もが最良の評価を身に着けています。ラウルを初め、ラミロ・バルデス、ギジェルモ・ガルシア両革命司令官などマルティ生誕100周年の歴史的世代の同志たちは、フィデルによって創立され指導されてきた党の、もっとも崇高な瞬間に活動しました。これからも、日々、共通の事業への専念と献身というレッスンを私たちに授けてくれることでしょう（拍手）。

ホセ・ラモン・マチャド・ベントゥーラ司令官は（拍手）、数十年にわたり党の組織化や運営や党内活動、資金の管理や行政など、難しい事業をその肩に背負ってきました。その献身や模範、その規律や誠実さに対し私たちの感謝の念を伝えたいと思います。そしてまた、学生や若者の基礎組織から指導活動に至るまで、私たちが日々、受けてきた教訓、支援、信頼に対しても。司令官の飾り気のなさ、謙虚さ、そして献身は、人生の教訓として私たちとずっと共に歩み続けることでしょう（拍手）。

革命軍将軍に関しましては、継承の大会である本大会は、この人に対する膨大な債務を背負い続けていくことを表明したいと思います。将軍は党の創立者であります、今後も決して党に別れを告げることはないでしょう。

最初にも申し上げましたように、革命への寄与を全うするということは同志としての義務であるだけではありません。私たちが自らに対して、指導者、すなわち真の革命家の主たる資質とは何かを示す一つの方法でもあります。自らの活動に常に満足することなく、社会の痛みに思いを馳せ、人民に役立っているもの、あるいは傷つけているものすべてに感覚を研ぎ澄ましながら、指導を行っていかねばなりません。敵に対峙し、成果を守るべきときには、妥協せず、不動でなければなりません。闘いの同志を発奮させ、認め、ほめたたえるときには、また処罰するときにも、誠実に、思いやりを持って行わなければなりません。

継承とは私たちの前を進んできた真の指導者の模範と教訓の上に成り立っています。常に、集団の運命のためにすべてを与える人々を、的確に、また心底から認めることが何よりも重要です。

革命軍将軍であり、閣僚であり、あるいは、国民の皆が呼んでいるように、ラウルに対しては、私の同志たちやキューバ人民の名において、「模範と、気力と、力と、そして信頼を、有難う！」と言いたいと思います（拍手）。「私たちが自分自身を信頼できるようにと、そこにいて、助けてくれて、有難う」。

この学習と養成の年月において与えてくれた支援と励ましは大切なもの、大変大切なものでした。それによって私たちは今日、責任を引き受けることができます。あなたとフィデルが歴史を作ってくれた、その責任です。挑戦は巨大です。しかし、私たちは落ち着いています。学校は近くにあり、あなた方が私たちのそばにいますので（拍手）。

同志の皆さん。

今日の事態は再び私たちを歴史的段階の前面に立たせています。4月19日はプラヤ・ヒロンの勝利の日ですが、あの戦いは帝国の雇い兵が革命を急襲しようとして、逆に驚かされたという、最初の戦いでした。あの戦いの前夜のフィデルの、この革命は社会主義の性格を持つという宣言、そして彼の勇気や才能は戦闘の組織化において光り輝き、戦いは72時間足らずで終焉し、雇い兵は海岸部の先端すら占拠できませんでした。そして、常に部隊の先頭に立ち、走り回る戦車の上のフィデルの姿は、この4月19日という日において、再び、私たちは何者であり、どこからやってきて、どこへ行くのかを思い起こさせます（拍手）。

キューバ共産党はこの抵抗のシンボルと、諸国人民の権利のために堂々と闘い、かつ、前衛における一つの場以上のものを求めない人々を待ち受けている勝利と、固く結びついています。

私たちの世代はこの挑戦を受け入れるにあたり、引き受けるべき責任とは何であるのかを理解しております。そして、歴史的世代を前に、革命を継承するという名誉と誇りを表明します（拍手）。私たちはそれをマセオにより不朽のものとなった、「……キューバをわが物にしようとする人は、戦闘で死することなくしても、血塗られた大地から埃を集めることになろう」という原則のもとに表明します。

カミーロが反乱軍司令官に任命されたときにフィデルに言った有名な言葉を借り、私たちは歴史的世代、党のメンバーの同志、私たちの愛する人民に申し上げたいと思います。「このうえなく威厳ある大義に奉仕する機会を与えてくれて有難う。この大義のためにいつも命を捧げるつもりです…私たちにとって、あなたの信頼に忠実であることを止めるよりも、息を止める方が簡単でしょう」（拍手）。

私たちはキューバです！

キューバ万歳！

祖国か死か！

私たちは勝利するだろう！

（喝采）

日本語訳 後藤政子